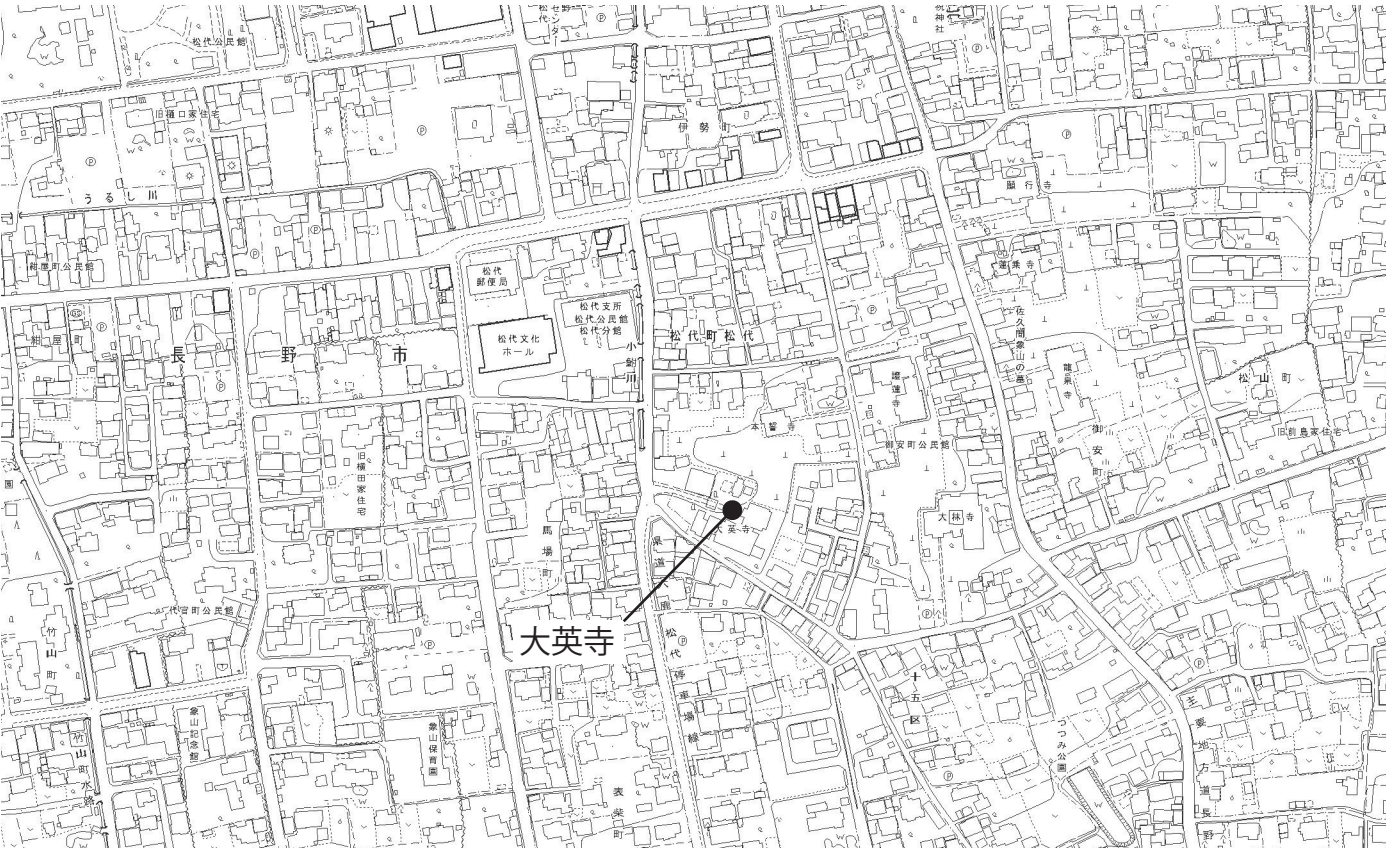


指定番号 1

だいえいじ ほんどう おもてもん
大英寺 本堂・表門

所在地	松代町松代
建築年代	本堂：寛永元年（1624） 表門：本堂と同時期
建築概要	本堂（木造平屋建、入母屋造、平入、本瓦葺） 表門（切妻、棧瓦葺、四脚門）
特徴等	大英寺は、真田信之が夫人大連院の菩提のために建てた浄土宗の寺院である。縁起によれば、当初は上田城下に建立されたが、真田家の松代移封に伴い、寛永元年（1624）に現在地に建てられた。明治5年の寺院伽藍焼失に伴い霊屋を本堂としたものである。 本堂は桁行5間、梁間5間の入母屋造で向拝が付く。天明5年（1785）の修理や明治以降の改造はあるが、柱や組物には極彩色が施された豪華な建物である。また真田家の霊屋の中では最大規模で、最古の建物である。 表門は、切妻造棧瓦葺の四御門であり、縁起によると寛永元年に霊屋（現本堂）移築と共に正門として造られたものとされる。部分的に改変を受けているが、扉を含めた部材の多部分は古く、本堂と同時期の建造年代と思われる。
備考	県宝（建造物） 指定年月日：昭和41年10月3日



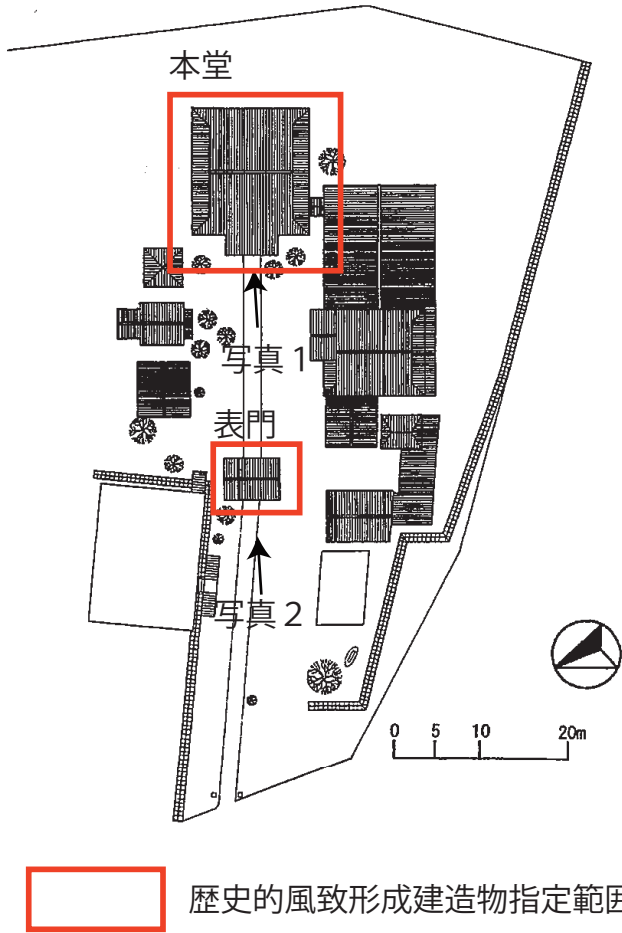
大英寺 案内図 S=1:5,000



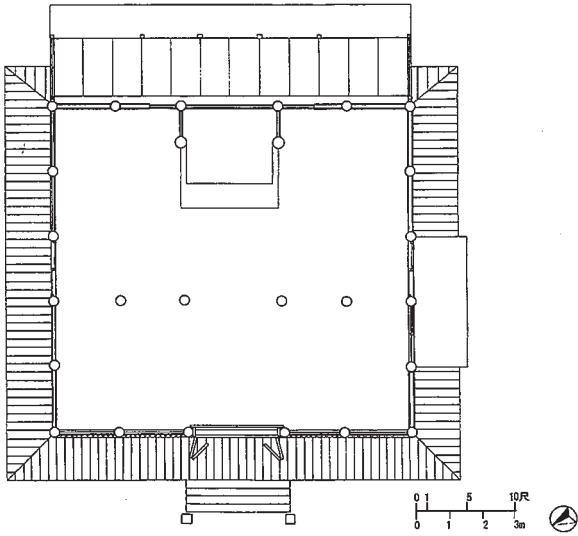
写真1 本堂外観



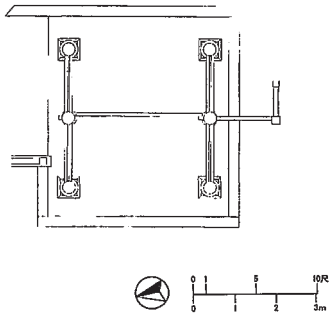
写真2 表門外観



歴史的風致形成建造物指定範囲



大英寺本堂 平面図



大英寺山門 平面図

大英寺 配置図および平面図

指定番号2

しょうがんじ かのんどう
松巖寺 観音堂

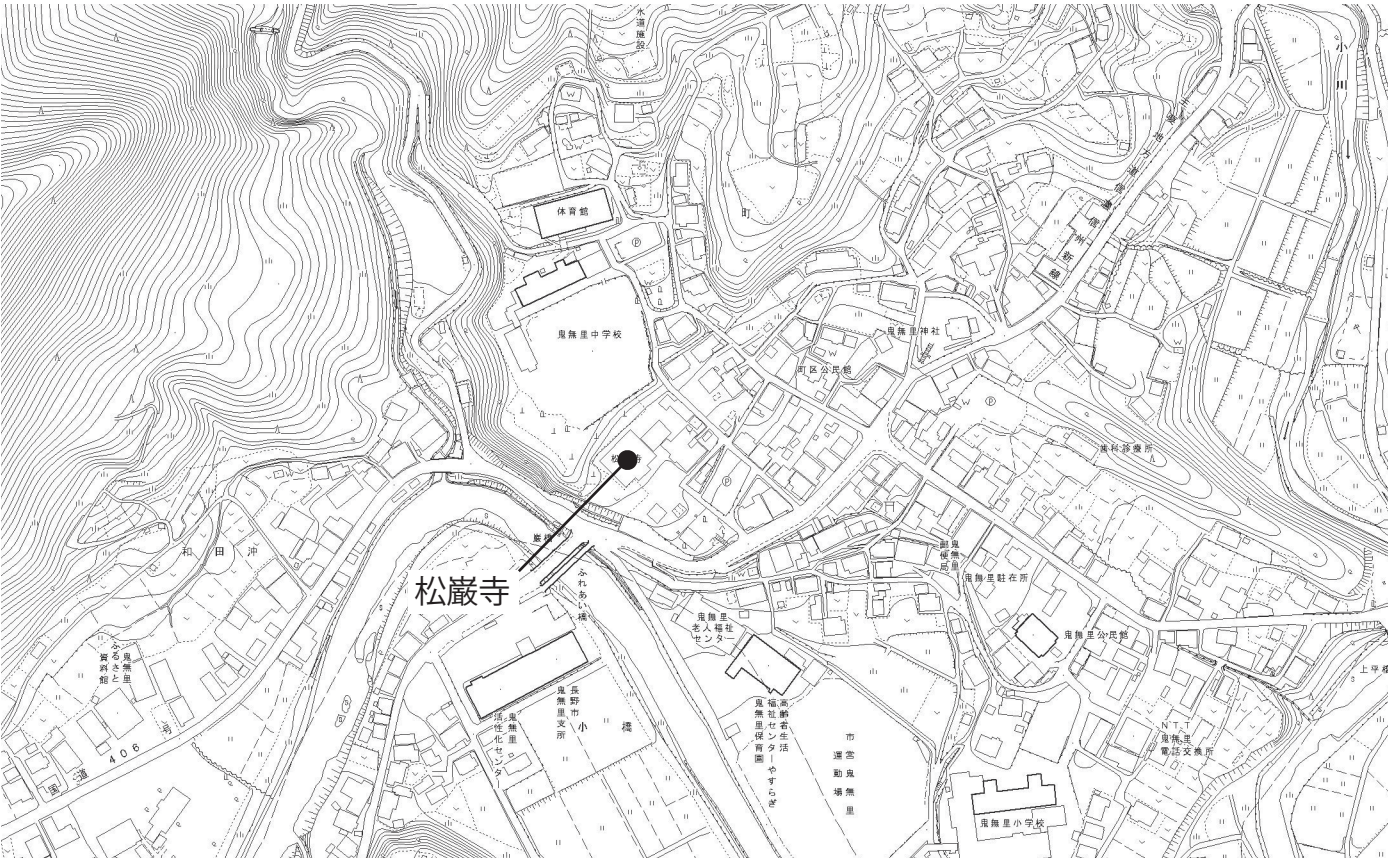
所在地	鬼無里
建築年代	寛永2年（1625）
建築概要	木造平屋建、入母屋造、妻入、鉄板葺
特徴等	松巖寺は鬼女紅葉の菩提所として建立された地蔵院が前身と伝えられ、元和元年（1615）に創建された曹洞宗の寺院である。 観音堂は、寛永2年（1625）の建立といわれ、堂内には本尊として聖観音が安置されている。また天保13年（1824）に和算家寺島宗伴が奉納した算額（市指定有形文化財）も掲げられている。 観音堂は、梁間3間、桁行4間、茅葺の上を鉄板張りとした入母屋造の建物であり、四週に切目縁を廻す。外観は質素であるが、内観は若葉を彫刻する虹梁、透かし彫り極彩色の彫刻のある欄間など、江戸初期の様式を伝える装飾が随所にみられる。
備考	市指定有形文化財（建造物） 指定年月日：平成17年1月1日



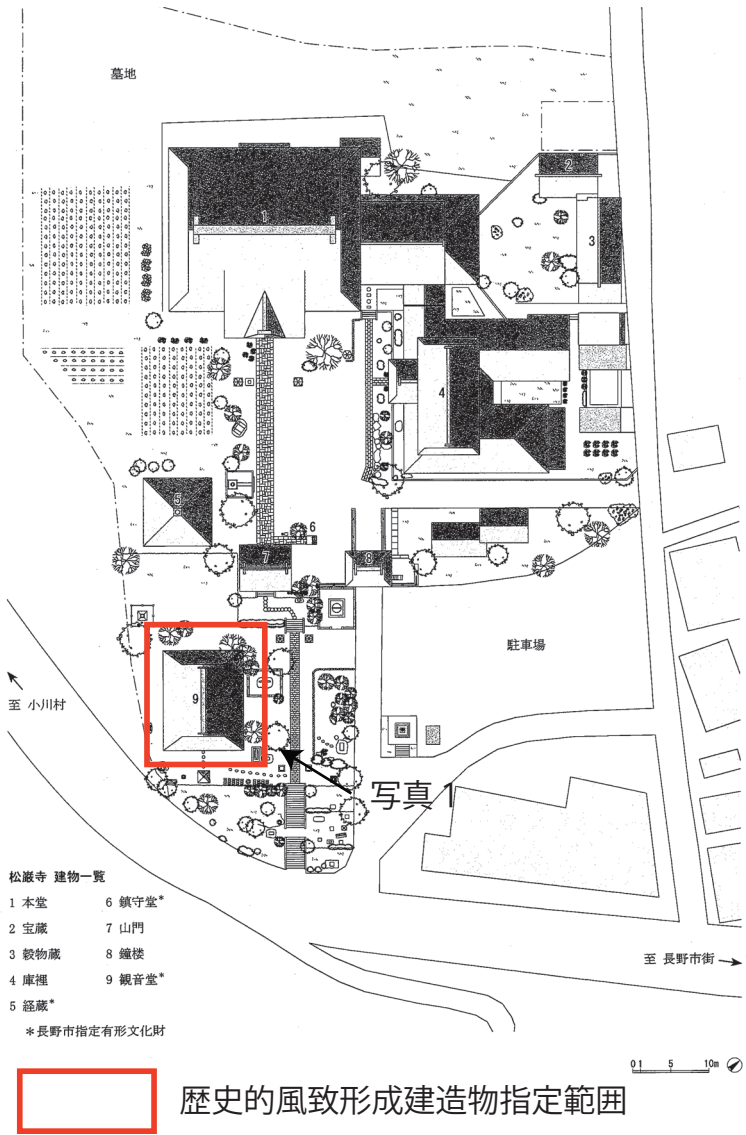
写真1 外観（東から）



写真2 内観



松巖寺 案内図 S=1:5,000



歴史的風致形成建造物指定範囲

松巖寺 配置図 S=1:1,000

指定番号3

しゆくぼうかんばら しゅおく
宿坊神原 主屋

所在地	戸隠中社
建築年代	明治33年（1900）頃
建築概要	木造2階建、寄棟造（くど造形）、平入、茅葺
特徴等	宿坊神原は、戸隠神社の宿坊の一つであり、中社社殿に至る大門通り沿いに位置する。明治になって奥社から移ってきた宿坊であり、茅葺屋根をなした主屋が戸隠の伝統的な町並み景観を今に伝えている。 敷地は、参道（大門通り）より一段低くなっているため、総二階で建てられている主屋は、参道からは平屋建てのように見える。参道に面した玄関も、主屋の二階に設けられている。 明治33年頃に建てられた主屋は、神殿を含む宿泊部分がまず造られ、次いで、敷地の奥に向かって建物の北側と南側に増築された結果、九州地方のくど造のようなコの字形になった。茅葺の建物で平面形状がコの字形をなすものは、戸隠のみならず県内においても他に知られておらず、貴重な建築である。また、宿坊神原の主屋は、中社の茅葺の建物としても規模が大きいことにくわえ、参道沿いの最も見通しの良いところに位置しており、町並み景観としても重要な宿坊である。
備考	



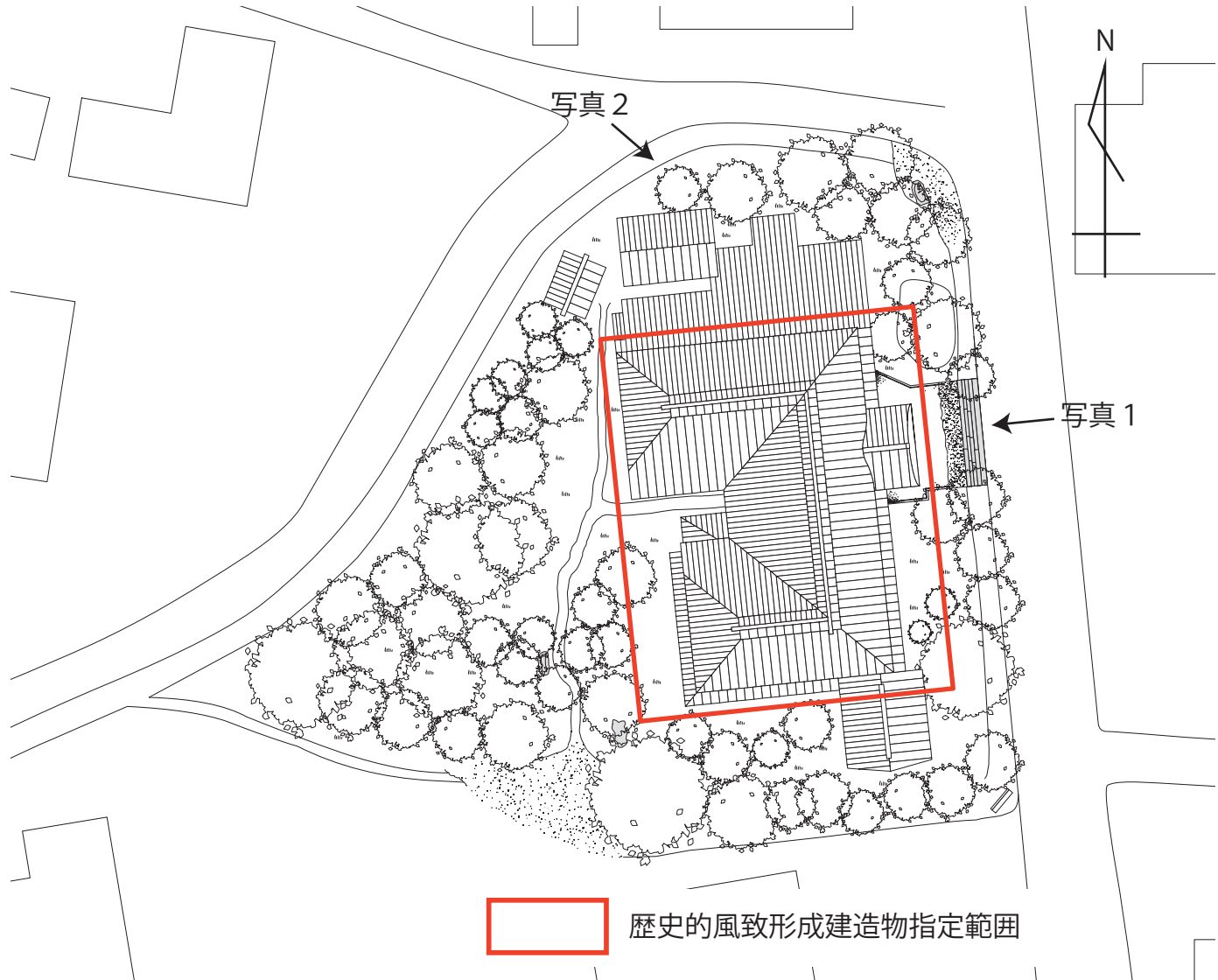
宿坊神原 案内図 S=1:5,000



写真1 宿坊外観（東から）



写真2 宿坊外観（北西から）



宿坊神原 配置図 S=1:500

指定番号 4

たけいりよかん
武井旅館

ほうこうしゃ
(宝光社)

しゅおく
主屋

所在地	戸隠宝光社
建築年代	延享2年（1745）
建築概要	木造平屋建、寄棟造、平入、茅葺
特徴等	武井旅館は、戸隠神社の宿坊の一つで、宝光社社殿に至る参道（大門通り）沿いに位置する。参道に面してまず門が構えられ、手入れの行き届いた広い前庭の奥に、主屋をはじめとした建築物が建つ。 宝光社では、昭和20年（1945）に大火があり、このとき、参道から東側に位置する宿坊や民家はその多くが焼失したが、参道の西側に位置する武井旅館は、この大火を免れた宿坊の一つである。 主屋は、延享2年（1745）に建てられた旧客殿部分にあたり、現在も茅葺のまま残されている姿は、江戸時代の宝光社の景観を知る上で貴重な宿坊である。
備考	



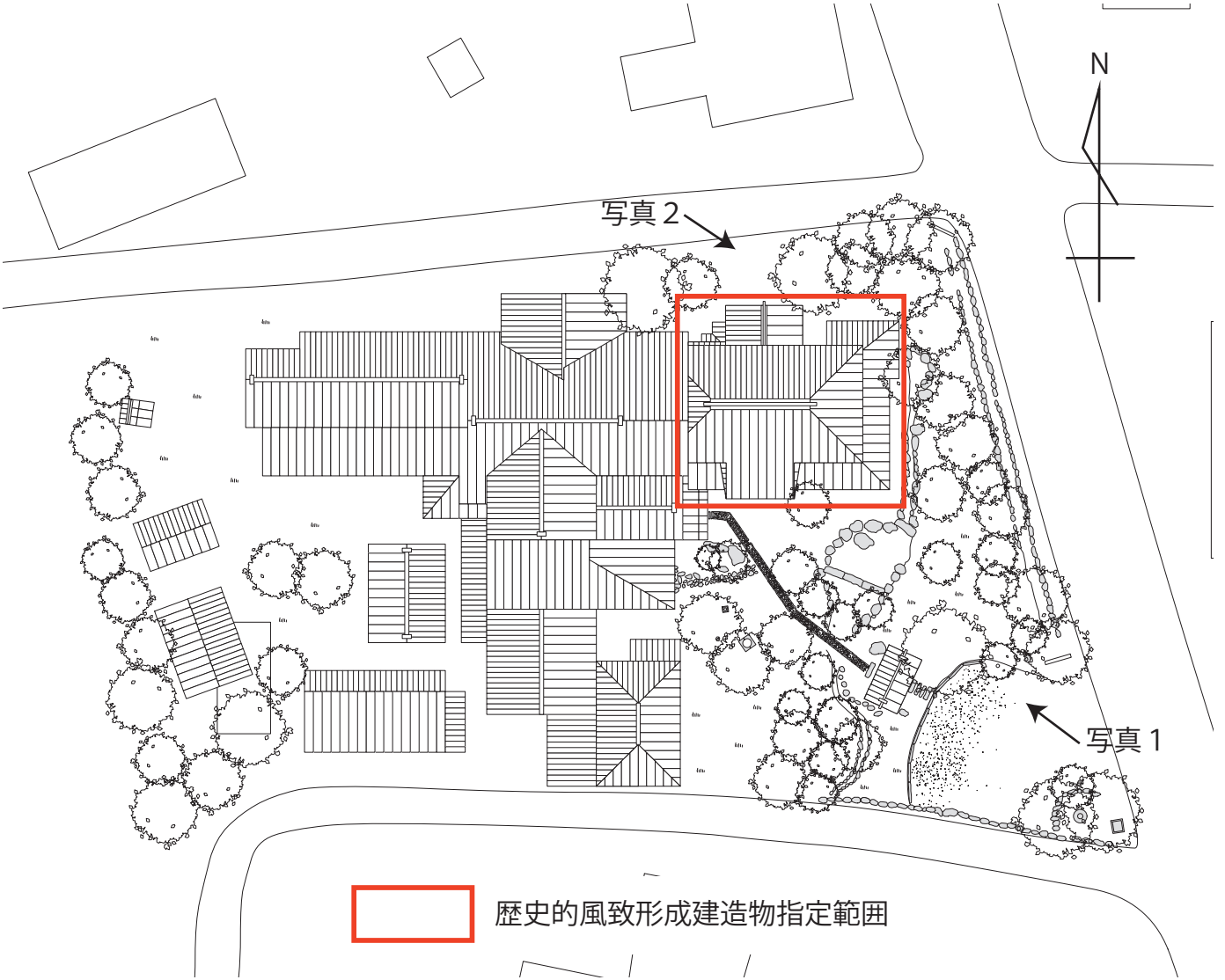
写真1 宿坊外観（南東から）



写真2 宿坊外観（北西から）



武井旅館 案内図 S=1:5,000



歴史的風致形成建造物指定範囲

武井旅館 配置図 S=1:500

指定番号 5

よこくらしょかん しゅおくもん
横倉旅館 主屋・門

所在地	戸隠中社
建築年代	主屋：明治4年（1817）～明治6年（1873） 門：江戸時代以前
建築概要	主屋（木造2階建、寄棟造、平入、茅葺） 門（切妻造、茅葺、薬医門）
特徴等	横倉旅館は、戸隠神社の宿坊の一つで、中社大鳥居から東側に延びる横大門通りに沿って通りの北側に敷地を構える。横大門通りに面して、門と土蔵が配され、その奥に主屋が位置する。 主屋は、明治4年（1817）から明治6年（1873）に建てられた木造2階建、茅葺、寄棟造の建築で、明治期になって2階建ての宿坊が多く建てられた中でも、初期に建てられた代表的な宿坊である。門は、地域で唯一の茅葺きの門で、朱塗りの木部と精細な彫刻が施された^{かえるまた}臺股などの細部が特徴的である。 横大門通り沿いには、中社の大鳥居から、五斎神社拝殿、宿坊極意、成瀬旅館、横倉旅館と茅葺形の屋根をなした大屋根の建築が連続しており、戸隠の中でも特に歴史的な景観がみられる通りである。とりわけ、横倉旅館の敷地内には、主屋のみならず門や土蔵ものこされており、横大門通りの歴史的景観を構成する貴重な宿坊である。
備考	



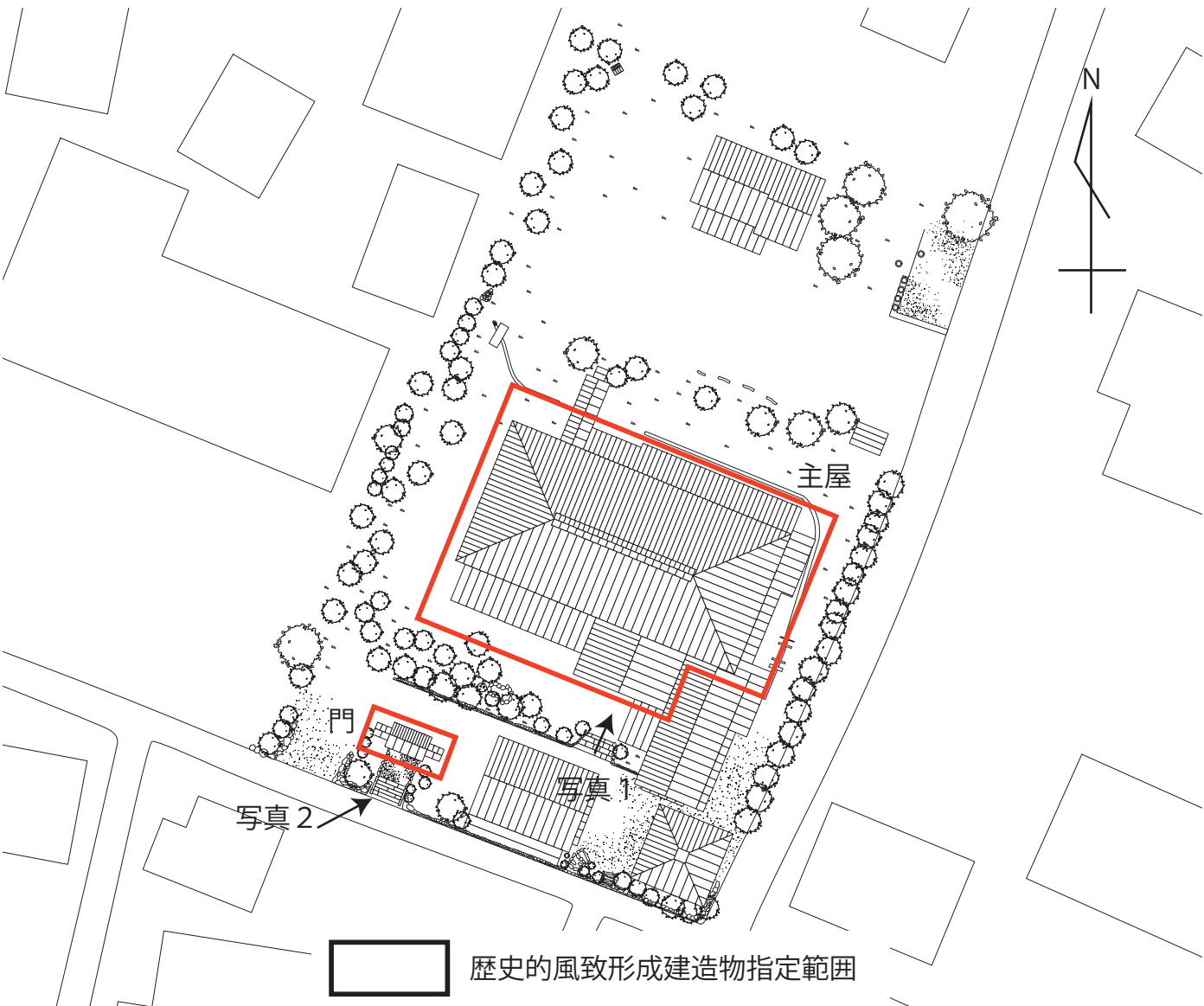
横倉旅館 案内図 S=1:5,000



写真1 宿坊外観（南から）



写真2 門外観（南西から）



横倉旅館 配置図 S=1:1,000